

いきいき健康生活
鴻巣市広報「かがやき」 平成22年12月15日号 掲載
乳がん検診について

日本の女性がかかる悪性疾患のうち第1位が乳がんです。女性の一生のなかで、約20人に1人が乳がんになると言われています。その現状は罹患率・死亡率とも増えています。

その原因の一つとして、日本の乳がんの検診率の低さであると指摘されています。欧米では罹患率は増えているものの死亡率は徐々に低下しており、対象年齢の約70%がマンモグラフィを中心とした乳がん検診を定期的に受けているからと言われています。

ちなみに鴻巣市の昨年の乳がん検診率は15.3%でした。小さな乳がんはほとんど命を脅かすことはありません。早期発見なら乳房を温存するなど、自分の希望する手術法や治療法を医師と相談して選択出来る可能性も高いのです。

また、入院期間や再発防止の治療期間なども短いので経済的負担も軽く済みます。きっと治療前と同じようなライフスタイルを続ける事ができるでしょう。

しかし残念な事に、日本ではまだ乳がんに対する関心や知識が低いために、発見されるときには既にがんが進行している場合が少なくありません。

特に36歳から60歳までの年齢層のがんによる死亡原因の中では乳がんが一番多く、また乳がんによる死亡者の半数もこの年代の人が占めています。

この年代は働き盛りで、子育て中の母親などが多く、病気や死亡が社会や家庭に与える損失ははかり知れません。乳がんが発見されることが怖いのではなく、知らないまま放置することが怖いのです。

あなた自身の身体と生活を守り、あなたを愛する人たちを悲しませないために、自分でできる事として、勇気をだして乳がん検診を定期的に受けましょう。